

■ 文学部

一 ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

文学部では、知識・技能、思考・判断・表現、関心・意欲・態度の項目において、学科において学位授与方針を定めています。それは、本学の教育ビジョン・建学の精神「智慧と慈悲の実践」にもとづきながら、「4つの人となる」（「慈悲」・「自灯明」・「中道」・「共生」の人となる）という言葉の中に、その基本的精神と願いが表現されています。課題を積極的に他者と協働しながら解決し、社会に還元する能力・資質を備えた学生に学位を授与します。

一 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学では、教育ビジョン「4つの人となる」ために、幅広い教養と学びの技法を身につけるための共通教育科目である「第Ⅰ類科目」、学科の専門教育科目である「第Ⅱ類科目」、資格取得とキャリア形成に関する「第Ⅲ類科目」を設置し、初年次から卒業までに学ぶ諸科目を有機的に連携・接続させた教育課程を編成しています。

文学部においては、各専門分野の知識・技能を身につけ、生涯学び続けていく意欲と関心を養うために、基礎ゼミナール・専門別のゼミナールを中心としたカリキュラムを編成しています。

一 アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学では、本学の教育ビジョンである「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成することを目指し、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成し、社会に送り出すことを教育目標としています。そのため本学は、以下の資質・能力を備えた学生を受け入れるため、多様な選抜方法により、多面的・総合的な評価を行います。

文学部においては、国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有し、学びを通して社会に積極的に関わっていこうとする意欲がある、資質・能力を備えた学生を求めます。

■ 日本文学科

一 ディプロマ・ポリシー (DP)

日本文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、日本文学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	① 構造的知識（総論）：日本語学・日本文学の学問領域を理解し、また日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開を理解しその特徴を説明できる。 ② 構造的知識（各論）：日本語日本文学の専門分野に関する知識を有し説明できる。 ③ 読解力：日本の古代から現代までの書き言葉・話し言葉で表現された言説の内容を客観的に理解し解釈できる。 ④ 情報リテラシー：日本語日本文学の分析・解釈を行う上で必要となる情報を収集し活用することができる。
思考・判断・表現	⑤ 批判的創造的思考力：日本語日本文学の事象に問題意識を持ち、その本質を洞察することができる。 ⑥ 文章作成力：自らの考えを適切な語彙を用いて論理的に文章化できる。 ⑦ 口頭伝達力：相手の話を的確に聞き取り、自分の考えや意見を相手に明確に伝えることができる。 ⑧ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	⑨ 共同研究への参画：共同研究やグループワークにおいて有効な役割を担い、参加しようとする意欲、姿勢を有している。 ⑩ 生涯学習に対する基盤と能力：生涯学び続けていくための問題意識を有している。また、地域や社会が抱える課題への持続的な関心とともに、その課題を積極的に解決するための技能を身につけようとする意欲を持っている。 ⑪ 異文化・他者の尊重と理解：異文化や異質な存在を謙虚に理解し尊重する態度を有している。

一 カリキュラム・ポリシー (CP)

日本文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 日本語学・日本文学の学問領域を理解し、日本語日本文学の発生から現在までの歴史的展開についての知識を身につけるため、1・2年生を対象とした基礎講義科目を設けます。 ② 各専門分野の知識・技能を身につけるため、2年生より上級生を対象とした専門講義科目を設けます。 ③ 基礎的知識とともに、基礎的な読解力、情報リテラシー、批判的創造的思考力、文章作成力、口頭伝達力を身につけるため、1・2年生を対象とした基礎ゼミナールを設けます。 ④ 専門的知識とともに、発展的な読解力、情報リテラシー、批判的創造的思考力、文章作成力、口頭伝達力を身につけるため、3・4年生を対象とした専門ゼミナールを設けます。 ⑤ すべての科目は、異文化・他者を尊重する態度を育て、社会・地域への関心を持ち続けながら生涯学び続けていくための問題意識を育てる内容とします。 ⑥ 教職課程（中学高等学校国語科）の単位となる科目を設置します。また、すべての科目は国語科教員を養成するために十分な水準とします。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎ゼミナール・専門ゼミナールは、少人数とし、学生の調査発表、共同研究、討議を中心に行います。 ② 講義科目においても、アクティブラーニング、サービ斯拉ーニング、ピアインストラクションを適宜取り入れます。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 4年間の総括的な学習成果として卒業論文を課し、主査・副査による口述試問を含め、DPの修得状況を総合的に評価します。 ② カリキュラムの改善のため、各学期の学生の成績及び履修状況、卒業時の学生自己評価アンケート等を踏まえた、学科教員によるカリキュラム検討会議によって、カリキュラムアセスメントを実施します。

一 アドミッション・ポリシー（AP）

日本文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	① 国語、地理歴史、公民、外国語について高等学校卒業相当の知識と技能を有している。特に国語について十分な知識と読解力を有している。
思考・判断・表現	② 問題意識を持ち、その問題解決のために、他者の意見を聞きながら、物事を順序立てて考え、書き、話すことができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ③ 異文化や異質な存在を謙虚に理解し尊重する態度を身につけようとする意欲を持っている。 ④ 日本文学・日本語・日本文化にかかわる様々な問題に対して深い関心を持っている。 ⑤ 学びを通して自己を研鑽し、地域や社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持っている。 ⑥ グループワークに積極的に参加する意欲を持っている。

■ 人文学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

人文学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、人文学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を身につけた学生に学位を授与します。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ① 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野に関する深い教養を体系的に身につけている。 ② 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における研究を通じて、学問の基本的な方法を身につけている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ③ 哲学、思想、宗教、文化、言語の学問的領域の分析方法を応用し、多面的かつ国際的に、学際的な視点でものごとをとらえることができる。 ④ 立場や見解の異なる者に対しても公平な理解を示し、建設的な議論や判断をすることができる。 ⑤ 学問知、実践知を自分のことばで表現し、文章や口頭で他者に伝えることができる。 ⑥ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 哲学、思想、宗教、文化、言語の諸分野における学問的経験を活かし、未来において起こる新たな思潮を理解し、つねに自らの学問知を刷新しようとする意欲を有している。 ⑧ 自らの能力を社会に還元する意思と、社会のなかで自らを高める意欲を持ち、自らの生き方について責任を果たす姿勢を身につけている。 ⑨ コミュニティの重要性を理解し、その発展に貢献する積極性と協調性を身につけている。

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

人文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に備えた学生を育成するために、哲学ならびに宗教学を基盤としてさまざまな思想や事象を研究する「哲学・宗教文化コース」、及び、英語力の向上も含め、コミュニケーション能力を涵養し、学際的視点に基づいて多様な文化を多角的に研究する「国際文化コース」において、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 知識を身につけ、学問の基本的な方法を修得し、卒業後も続く意欲と関心を養うために、学年にそって、哲学、思想、宗教、文化の諸分野を学ぶ科目を設けます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 哲学領域においては、西洋哲学ならびに東洋哲学の基本的な流れと主だった哲学者の思想を学び、発展的に美学・芸術論や現代社会論などを学ぶための科目を配置します。 ◆ 宗教学領域においては、宗教史、宗教民俗学、宗教社会学、宗教人類学などを幅広く学び、異文化間理解と宗教、生命倫理など、現代的な問題を考察するための科目を配置します。
-------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 文化領域においては、文学、哲学、文化人類学、批評理論を学び、多岐にわたる文化現象を学際的に分析し、議論するための科目を配置します。 ◆ 英語コミュニケーション領域においては、国際社会で活躍するのに十分な英語運用力を習得し、言語や英語教育に関する専門的な知見を得るための科目を配置します。 <p>② 知的好奇心と社会性を身につけ、建設的な議論の方法やプレゼンテーション、論文執筆の技法を修得するために、基礎ゼミならびに課題研究ゼミ、その他のゼミ形式の授業を1年次から4年次にわたって設けます。</p> <p>③ いずれの科目においても、多様な価値観を認め、コミュニティの発展に寄与するための姿勢を育てます。</p>
教育方法	<p>① PBL*の実践：1年次から4年次まで、ゼミをベースとしたPBLの実践で、問題発見力と問題解決力を鍛錬し、仲間とともに学ぶ機会をつくります。（*PBL=Project Based Learning）</p> <p>② チーム・ティーチングの実践と学際的視点の涵養：現代に深く関わる問題をチーム・ティーチングで取り上げ、学際的に考える機会をつくります。</p> <p>③ 自立学習支援：自主的な研究会やシンポジウムの企画をサポートし、意欲の高い学生がさらに力を伸ばすことのできる環境を整えます。</p> <p>④ アクティブ・ラーニング型講義科目：大学教育の一方に少人数ゼミがあれば、もう一方に多数の学生がともに学ぶ講義があり、講義科目においても、部分的にグループワークを取り入れ、発表機会を設けるなどの工夫により、双方向型の授業を展開します。</p> <p>⑤ WAC*の実践：人文学を汎用性の高い能力とするために、とくに論文指導に力を入れ、1年生のゼミから論文指導を徹底します。あわせて研究上の倫理性も育みます。</p> <p>（*WAC=Writing Across Curriculum）</p>
評価	<p>① 卒業論文は4年間の集大成と位置づけ、複数教員の口述試験を経て、ルーブリックを用いた合議で評価します。</p> <p>② DP達成度を「卒業時アンケート」によって確認し、その結果を教育課程の改善に役立てます。</p> <p>③ 毎学期、各授業における学生の定性的情報を交換し、個々の問題に対応するとともに、学科の教育課程の改善を図ります。</p> <p>④ 本学科の学びの特徴に応じたカリキュラムアセスメントを実施し、カリキュラムの中間評価を行います。</p>

一 アドミッション・ポリシー（AP）

人文学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に備えた学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	<p>① 高等学校で履修する教科のなかで、とくに国語、地理歴史、公民、外国語について教育内容を理解し、哲学、思想、宗教、文化の諸分野の専門的な学習に必要な高等学校卒業相当の知識と技能を身につけている。</p>
--------------	--

思考・判断・ 表現	② ひとつひとつを順序立てて論理的に考えることができる。 ③ 文章や口頭で、自身の考えをわかりやすく述べるができる。
関心・意欲・ 態度	④ 文化や歴史、人間の生活にかかわるさまざまな問題に対して深い関心を持っている。 ⑤ 高度な読解力や分析力を身につけることに意欲がある。 ⑥ 自らの学びを通して社会に積極的に関わっていかうとする意欲がある。 ⑦ 他者の立場に立ってものごとを考え、行動する態度を身につけている。

■ 歴史学科

ー ディプロマ・ポリシー (DP)

歴史学科は、大学が掲げている教育ビジョン「4つの人となる」を、生涯を通じて体得していこうとする学生を育成するために、歴史学科の教育課程を修了し、以下の資質・能力を備えた学生に学位を授与します。

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ① 歴史についての幅広い知的好奇心をそなえ、専門的かつ広範な知識を身につけている。 ② 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の実証的な研究方法を身につけている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ③ 自らの学びの対象として設定した問題について、日本史学、東洋史学、文化財・考古学のいずれかの領域の研究方法を通じて解決することができる。 ④ 自らが学んだ知識や経験にもとづく考察を、客観的に口頭や文章で表現することができる。 ⑤ 知識集約型社会を見据えて、自らの専門分野の学問領域と他の学問領域を統合的に学び、多面的・重層的な思考をすることで、複雑で多様な現代社会の課題に応えることができる。
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 日本史学、東洋史学、文化財・考古学の多様な学びを通じて、社会人としての責任や役割を主体的に果たそうとする姿勢を身につけている。 ⑦ 自らが学んだ領域を活かして、地域社会（コミュニティ）が抱える課題を他者と協働しながら解決しようとする意欲を有している。

ー カリキュラム・ポリシー (CP)

歴史学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、日本史コース、東洋史コース及び文化財・考古学コースにおいて、以下のカリキュラムを編成します。

教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 各専門分野における知識を体系的に修得するために、基礎部門の学科共通科目、応用部門の特講科目などを系統的に配置します。 ② 各専門分野における研究方法の理解と実践を進めるため、専門別のゼミナールの他、選択科目として基礎研究科目などを配置します。
教育方法	<ul style="list-style-type: none"> ① アクティブラーニング：主体的にものごとに向かう姿勢を身につけ、他者との協働によって問題を解決する能力を育成するために、アクティブラーニングなどを取り入れ、自ら発表したりディスカッションをする機会を設けます。 ② 少人数教育：専門教育においては、歴史についての専門的な知識や実証的な研究方法を身につけるために、基礎ゼミナールや専門ゼミナールなどの少人数からなる集団を組織し、学習活動を進めます。 ③ 実習・フィールドワーク：自らの視野を広げ、情報収集や整理の技能を高めるために、地域社会の歴史的資源を活用し、実習やフィールドワークなどの学習機会を提供します。

	④ 卒業論文：卒業論文を全学科生に課すことにより、各自が研究目標を定め、学習成果を論理的・創造的に表現する機会をつくります。
評価	① 4年間の総括的な学習成果については、全学科生に課せられる卒業論文に対して、担当教員による評価と口述試験を行い、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の達成状況を評価します。 ② 卒業時には、カリキュラム改善の指標とするため、卒論ルーブリックや面接調査などにより学生生活全般に対する総括的評価を行い、カリキュラムのPDCAサイクルを推進します。

一 アドミッション・ポリシー（AP）

歴史学科は、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に示した資質・能力を総合的に身につけている学生を育成するために、以下の資質・能力を備えた学生を求めます。

知識・技能	① 高等学校で履修する地理歴史の内容を十分に理解している。 ② 歴史学科の学びに必要な基礎的な知識・技能を有している。
思考・判断・表現	③ 物事を順序立てて考えることができる。 ④ 多様な考え方を整理して説明することができる。
関心・意欲・態度	⑤ 歴史や文化に関することに幅広く深い関心を持っている。 ⑥ 読む、聞く、書く、話す能力のさらなる向上やわかりやすい表現方法の習得に意欲を持っている。 ⑦ 自らの学びを通して、地域や社会に積極的に関わっていこうとする意欲を持っている。 ⑧ 研究・調査や実習などを通じて、他者への配慮を身につけようとする意欲を持っている。